

# UTA会 だより



第4回UTA会風景

## ■幹事長の挨拶

久保明子

二〇一〇年もあと残すところ一二月のUTA会だけになりました。二十年以上もの長い間に、形を変えてきたセミナーも、今ではUTA会となって同窓会として周知されたことと思います。嬉しいです。勉強もどんどん進み、ホームページも日々更新さ

れ、至れり尽くせりの盛りだくさんの内容に驚きながら、何とお礼を申し上げて良いか分かりません。ただただ、ありがとうございます。

になります。お子様の声でマイクの声が聞こえない、何とかならないかという声も耳にします。大変な努力をして時間もお金も、そして、家族や、職場の協力を得て参加するUTA会です。どうか、ご理解ください。

セミナーでも前に積極的に出られる方の中には、本当に新しく学ぶ方が増えてきたと実感します。そして、皆様とても真剣です。長く学んできた方々も今では真剣な眼差しです。セミナー会場も、そんな熱気を感じます。

ただ、お子様でもセミナー会場で勉強できる態勢のお子様については参加は可能です。そして同窓希望も、セミナー案内にもありますが、同窓希望をお書きになる前に、趣旨をご理解いただければと思います。

その中で、お子様連れの若いご両親、または保護者の方にお

今回はお願い事ばかりですが、UTA会になってもなかなか現実がご理解いただけないので、この紙面をお借りして書かせていただきました。十二月のUTA会で実践していきましょう。

願いです。お子様を交代で見られて参加していただきたいと思っています。お子様を見ながらのセミナー参加では、今ひとつ勉強ができません。また、他の参加者の方々の勉強の妨げ

になります。お子様の声でマイクの声が聞こえない、何とかならないかという声も耳にします。大変な努力をして時間もお金も、そして、家族や、職場の協力を得て参加するUTA会です。どうか、ご理解ください。

### ■第三回UT A会の開催状況

二〇一〇年五月九日から十一日まで、第三回UT A会が開催されました。

今回から原則としてUT A会会員のみでの参加となりましたが、七百三十名を超える多くの方々のご参加がありました。

初日の田池先生の挨拶では、「古い人も新しい人も、この二年をメドに学びを進めてください。このたびへ意識の流れ・増補改訂版Vが出版されました。学びの指針として読んでください。常識的に生きている人はこの本に反発するでしょう。徹底的に反抗、抵抗してください。だんだん変わってきます。相手を変えよう

とするのはダメです。自分が変わるのです」といった主旨で話されました。

続く体験発表は、幹事長の久保明子さんが自ら出て「今回、A意識の流れ・増補改訂版Vを書店で買いました。表紙を見るだけで涙が出ました。同居している母も読むんです。本からも母からもいろいろな気付きをいただきました。ありがとうございます」と話されました。

続いて、波動の勉強に先立ち田池先生から「あの本A新刊Vは波動なんです。この学びは心で分かる勉強です。そのために母親の反省、田池留吉に心を合わせる瞑想、とにかく波動です。自己確立した人から平和の波動が流れます」と強調され、休憩の後、「お母さんの反省で温もりを感じた人」で十人の方が波動の勉強

に出られた。

最後に「ふるさと」の歌となり、「嬉しい人どうぞ……」で塩川さんが筆頭に飛び出され、一瞬のうちに大きな輪が広がりました。

二日目の午前中は瞑想・親睦の間で、会場やその他思い思いの場所でそれぞれ過ごされました。

午後の波動の勉強に先立ち、幹事長からのお知らせの後、UT Aブックの桐生さんから、次回から市販本を書店で購入いただくことが報告され、皆さんの拍手で了解を得ました。

続いて、田池先生から「昨日の復習です。学びが進むと闇がどんどん出てくる。自分の闇を抱きしめるんです。闇が変わってきますよ。そして、愛が変わっていく。お母さんの温もりです。それが分かるのが瞑想

です。お母さんにしてもらった一番大きなことは生んで貰ったことなんです」と話された。瞑想の実践ということで、久保秀雄さんご夫妻と娘さんの和恵さんが指名され、塩川さんが意識を出されました。

続いて「田池留吉の意識に合わせたら幸せ」の実践で、塩川さんが異語でメッセージ。先生が「皆さんの思いを今、塩川さんが出してくれたんです。今、私の本当のメッセージを伝えられるのは、この人しかいないです」と話された。その後、「クソ田池！がなかなか出ない」と沖縄の茶山さんが前に出られた。続いて「温もりを感じるが、ちょっと疑問のある人」ということで六人の方が波動の勉強で出られました。

休憩を終えて、「一生懸命やっている」と自分で思う人」で十六人の方が

出ました。「波動の勉強はこうして出ている人の勉強だけでなく、皆さん自身の勉強でもあるんです」と話された。

最後に「ふるさと」を歌って、二日目終了しました。

三日目の午前中は、田池先生から「田池留吉の宇宙・世界を感じることを信じて、やっていく。人生観、世界観がころっと変わりますよ。それが本当の愛なんです。愛はエネルギーで仕事をします。とにかくお母さんの温もりです。そのためにお母さんの反省ですね。それをしない人は冷たい人です。自分の闇を包みますですよ。どんどん喜びに変わります」と話された。

また、「自分が感じているものが本物かどうかの検証が難しいです。私

は波動で判断します」と語られ、「自分では感じる、次元移行も信じられるという人」ということで、各コーナーから五名程度ずつの約二〇名の方が波動の勉強に出られた。

さらに、「新しい人で悩みがあり、このままでは帰れない人」ということで六人の方が出られた。

そして、「あと四分あります」で「ふるさと」の歌の輪が広がり、正午に先生が参加された全てのスケジュールは終了しました。

午後は十四時半まで自由時間でしたが、十四時頃までに、皆さん、思い出を胸に秘めて三々五々帰路につかれました。



#### ■第四回UT A会の開催状況

二〇一〇年九月十二日から十四日まで、第四回UT A会が開催されました。今年の記録的な残暑の中、七百三十一名を超える多くの方々に参加されました。

初日は久保幹事長のお知らせの後、田池先生の挨拶で「この学びの本当のことは頭では分かりませんが、心で分かるんです。そのためにも、本（『意識の流れ・増補改訂版』）と間もなく改訂版が出る『続・意識の流れ』をしつかりと読んでください。そして、母親の反省と瞑想です。苦しんでいる人は自分が間違っているんです。なぜ間違っているのか。なぜ生まれてきたのか。本をしつかり読ん

で十二月に参加してください。それから、新しい方に受付で出版物の中からお好きなものを三点差し上げますのでお持ち帰りください」等と話されました。

続く体験発表では、九十五歳の久保秀雄さんが「前回のセミナーの後、体調を崩して入院しましたが、点滴を受ける状態ながら不思議と食欲がありました。入院中のある日、ベッドでふと見ていたテレビで意識の流れを実感する番組を見て、嬉しい気持ちで湧いてきました。病気は苦しみなのに、その苦しみもが楽しみに感ずるといふ貴重な体験をしました」と話されました。

続く波動の勉強に先立ち、先生から「人間は意識・波動なんです。波動はエネルギーです。エネルギーは仕事をします。肉のことなど、どう

でもいいんです。自分を知るのは自分の心を見るしかない。心を見るとは自分の中を見るところです。皆さんは外ばかり見るんです。心を見るために母親の反省と瞑想を焦らず、たゆまずに続けてください。今回はお母さんの温もりと自分の闇に焦点をあてて三日間やります」と話され、「いろいろやって闇を感じてきたが、もうちょっと出したい人」ということで六名の方が出られた。

その後、先生の指さしで数組のご夫婦や親子などの方々、会場内を走り回ったり、硬直の現象をされ、先生が「皆さん方の姿ですよ」と話された。

最後は「ふるさと」の歌になり、先生の歌に合わせて塩川さんを先頭に輪が広がっていきました。

二日目の午前中は瞑想・親睦の時間ということで、各自会場やその他の場所それぞれ過ごされました。

午後から始まった波動の勉強では、田池先生から「心で分かるにはどうするか。お母さんの反省です。お母さんにしてもらったこと、してくれなかったこと、してあげたことをできるだけ思い出して書き出すんです。その時の思いも書いてください。そして、ゼロ歳の瞑想です。それを続けられれば、お母さんの温もりが伝わってくる。その温もりがあなたです。その温もりであなたの闇を抱きしめるんです。よく出てきたなど喜ぶんですよ。さらに大きな闇が出てくる。闇が大きければ大きいほど嬉しくなる。学びの最後は瞑想です。瞑想の最後はへ田池留吉・アルバートの世界に心を合わせる✓それだけ

です。田池留吉の世界、それが真実の世界、本当の自分のことなんです。では、私は田池留吉に合わせて瞑想を続けてきたという人出てください」に十名が出られた。塩川さんから一括のメッセージの後、「それでもという人、三人だけやります」で、二名が出られ、メッセージを受けました。

休憩を終えて、「母親の反省、ゼロ歳の瞑想を続けて何かしらありがとうを感じ、少しだけけれど温もりや闇が出てきたと思う人。最後の最後まで田池留吉に心を合わせていきたいと思う人出てください」に一瞬にして約五十名の方が前に出られた。時間の関係もあり、三十六人目の方が終わった時点で先生が「時間になりましたので、今日はこれで終わりますが明日残りの人出てください」で二日目が終わりました。

三日目は日程に先立ち、UTABックの桐生さんから、今秋発売される「その人・田池留吉」のご案内がありました。

引き続き、早速波動の勉強に入り、昨日の残った十四名の方が前に出られました。個々の勉強の中で「ゼロ歳に戻る。原点に戻ることが大事です。みんな公平ですよ。全ての人がゼロ歳に戻るんですよ」「ネコ（禰宜＝神道）もシャクシ（釈子＝仏教）も」等話をされた。最後の久保徹夫さんの場面で、お母さんのメッセージと来世のニューヨークでの出会いのメッセージが伝えられると、会場が急激に盛り上がり、最後は全員が総立ちとなって自然に従来の喜びの輪の状態になっていきました。正午、先生の「今回はこれで終わります。

元気でお帰りください」で、全てのスケジュールが無事に終了しました。午後は自由時間でしたが、皆さんそれぞれが帰路につかれました。

次に、UTA会に参加された方からのメールを二つ紹介いたします。

▼夫との同室、無理を言ってますみませんでした。夫は自分から五月セミナーに参加した友に、「九月は自分も参加するからね」と言っていました。セミナー参加の当日、近所の人に「夫婦で出かける姿見るのは初めてやね。手を繋いで歩いて」と冷やかされました。その時、私はさっさと夫の前を闊歩かっぽしています。その言葉でハツとしました。夫に従っているつもりでしたが、堂々と前を威張っ

て歩いていたらだと気付かされました。なるべく一緒にと思つて歩くのですが、先を行つている私でした。

セミナー会場に近づくにつれて、いろんな人たちと出会つて喜んでくれる私を見て、夫はニコニコとしています。夫はセミナー参加は三回目ですが、夫は二回目と言います。一回目のセミナーは、私の機嫌を取るための参加だったのか、しぶしぶ参加してくれていたんだと思いました。

参加回数を重ねるごとに、夫の顔は晴れ晴れとしているように見えました。セミナーからの帰り道も、後ろの席からずーっと私の姿を見ていたと、嬉しそうに話してくれました。そして、少し残念だと思つたことは、私の隣に夫の席を確保していたんですが、少し腰を痛めてしまったようなので壁際のほうが楽だと思つ

て、他の人に席を譲りました。帰ってきて、夫は最後の日は私の横に座ろうと思つていたそうです。そして、「今度の参加のときは、故郷の輪の中に入れるような気がする」と言っていました。

夫の参加をともにして、いろんな私の心癖に気付かされました。本当に、ありがとうございました。

(Aさん)

▼UTA会に参加させていただきました。ありがとうございます。

見知らぬ方々と一緒にの宿泊は心細いなあと思っていました。とつても楽しく過ごさせていただきました。いろんなことをお聞きしながら勉強させていただき、行つてよかつたなあ。と感謝しております。(Iさん)

## 会員からのお便り

このコーナーは、皆様とUTA会を繋ぐページです。皆様の体験談や手記、ご意見などを、お気軽にお寄せください！

### ■体験談

アメリカ ウォーレル直子

二〇一〇年四月二〇日

●心の体験、「瞑想は喜びです」

ついさっきの瞑想の中で、本当に心から自分の闇さん達に対して、「ありがとう！ あなた達が存在していたからこそ、今の私の喜びの体験があり、ありがとうの思いが噴き出る体験をさせてもらっている」という思いが、心から噴き出してきて、嬉し涙々、喜びの中に、ありがとうの思いの中に、懺悔の思いの中にひたっている自分の心を感じさせていた

いた！ 信じられないくらい、喜び、喜び、です。

私は今、初めて心から幸せ、嬉しい、ありがとう！と、すべてにありがとうと思える自分の心を体験させていただいています。こんな体験が、本当に私に実現しています。

お母さん、田池留吉、アルバートに対して、本当の自分に、闇の自分に、すべてにありがとう！ただ、もう、無条件に、ありがとう！だけです。

真実の世界の一端に触れさせていただいていると思える、すごく嬉しい体験です。それが、今、やっと初めて心で感じて、信じられます。これを、これからしっかりと確信へと繋いでいけるように、心を励んでまいります。

お母さん、田池留吉、アルバートへ、心より、ありがとうございます。

二〇一〇年四月二四日

●自分の闇を受け入れていこうという瞑想での体験

「くそ！ くそ！ お前に負けるものかー！ 今に見てろ！」という復讐心、戦いの心と、「己一番、我に従え、我にひざまずけ、我を崇めよ」という支配欲、エゴ等々を、今もしっかりと自分の心の中に押し込めたまま、苦しい思いを抱え持っていることを、やはり認めざるを得ない。少しずつながら、最近、それらの思いを、母の温もりの中に解放していこうという、優しい思いが私の心の中から出始めている感じが、異語を語ろうとする中で、さらけ出していこうとする中で、「出ておいで」と、愛しい我が子、長い間押し殺してきて、ごめんなさいという思いと

共に、同時に、すごいエネルギーを、さっきの瞑想でも、ひとしきり大声で怒鳴りまくって、妹Sへの嫉妬心を始め、いろんな人達への似た許せないという思いを噴き出すことができた。「ありがとう。出てきてくれて、ありがとう。共に、二人三脚で、アルバートへの道を歩いていこう」と、誘う思いが自分の心の中に、確かに感じられた。

自分の苦しい闇の思い達へ、優しい誘いを促す、自分の心の変化が、少し感じられて、嬉しい。ありがとう！

二〇一〇年五月二五日

●第三回UTA会での体験

今回、第三回目のUTA会に参加させていただいて、思いがけない嬉しい成果を感じさせていただいた。

初めての心からの喜びと感謝いっぱいセミナー参加でした。

やっと今、私の心の学びも、今までの二十年以上にわたる積み重ねの努力が芽を表し始めたように感じられたセミナー参加でした。本当に、心より田池留吉先生にはもちろん、すべてのお世話してきてくださった方達へ、ありがとうございます！

共に学ばせていただいたきたすべての学びの友達に、ありがとうございます。今後とも、よろしく願います。

今回、初めて田池先生からの個人指導としての私の意識、そして、メッセージを受け取り、本当に至れり尽くせりの誠意溢れるご指導に、心より深くお礼を申し上げます。

また、会場での第一番に「今日この頃、嬉しい、嬉しいとなってきた

いる人達、前に出てきなさい」との先生の促しで、前に出させていただきました。その時の私へのコメントも、学歴を誇ってきた私の闇の思いを、改めて指摘されて、改めて、その自己供養の必要性を指摘していただきました。自分では、もう、し終わったくらいに、甘くとらえていたことに、やっと気付かせていただきました。本当に、ありがとうございます。すぐ的確な指摘、私の盲点でした。ただ、ただ、頭が下がるのみです。学友に執着する思いも、それと同時に気付かせていただきました。ありがとうございます、学友達へ。これからはしっかりと自己供養に、自分の闇の思いを抱き締めてまいります。

二〇一〇年七月一三日

●真実に出会えた初体験



今さっきの瞑想で、もう、本当に信じ難い現象、体験が、初めて私にも起こった。

まず、私の心の中から、また、いつもの如く「くそ、くそ、くそ！」お前なんかにかけてなるものか！」から始まったが、それもほんの残りが出てきたという感じで、次にはいつものように、とにかく懺悔、「肉を本物としてきた心が、根本的な間違いだ！」という、懺悔に始まって、それもすぐに終わって「本当の私は偉大なんです！ 嬉しい！ 嬉しい！」という叫びが、全く初めての現象と、体験とになった。信じられないという驚きとともに、それでもはつきりと自分の心から、しっかりと何度もその思いが叫びとなって飛び出してきた。そして、何回かその本当の自分の優しさと温もりで、

闇の自分を抱き締めて、抱き締めて、愛しい我が子という実感で、それは、それは、本当に初めての嬉しい、本当の自分との再会、「ひとつ」を自分と本当の自分との出会いと感じて、それが実際に私の心の中での体験として起こった！ すごい現象体験だった。もう、私の心の中は、上を下への大騒ぎ！ 「ただ、ただ、嬉しい、嬉しい！ ありがとう、ありがとう！」と、大声で心の底からの喜びが、叫びとなって、どんどん飛び出てきて、母に、田池留吉に、みんなに、「ありがとう」と、半時間ほど続いた。喜びと感謝いっぱい、本当に最初の瞑想体験だった。私は、今、初めて、この心の学びは本当に真実に出会える学びだということを信じられると、実感させていただいた。ありがとうございます。

二〇一〇年八月二十四日

●今の自分の心を語る

「やっど、やっどです」

私が赤ちゃんの時、お母さんの腕に抱かれて、お母さんの目を素直に、一心に見つめている。そういう赤ちゃんの素直な心に戻っていく。その素直な思いで、田池留吉の目を見つめている。今、瞑想状態にいます。

田池留吉の目は、優しい、優しいお母さんの思いです。それを伝えてくれています。「どんな闇でも、出しておいで、出していきなさい。お母さんの優しい温もりの中で、すべて、出していきなさい」と促しています。

異語が出る。

今、私は安らかに、静かに、自分の心を見つめています。今の心を語っ

てまいります。

私は長い、長い、長い間、この赤ちゃんの素直な心を忘れ去ってきましました。

田池留吉の心の学びに就いて、二十年以上が経った今、その間、たくさんのセミナーに出席させていただけでも、それでも、この学びを素直に実践するには至っていません。と、今、つくづく感じています。

そのセミナーも終了後、ここ二年間に、やっと自分のそんな貧しい心の実態を心感じて、初めてこれでは心の学びをしたとは言えないと認めざるを得なかった。自分が甘く、軽くとらえていたことに、気付かされました。

それから、やっと本気で、初めて、しっかりと死ぬまでこの肉を使って、自分なりに田池留吉の指し示してく

れている道を、唯一の本道を、歩んでいかなければ何のために生まれてきたのか分からないと、初めて心で気付かせていただきました。

最近になって、やっと真剣に、本気でこの学びに、心を向けるようになってまいりました。

私はずっと真実の学びを求めてきました。私は、たくさんの過去世の転生を通して、ずっと真実を探し求めてまいりました。

でも、今世の今、この田池留吉の心の学びに出会うまでは、決して本物には出会ってこなかった、出会えていないと、そう、ずっと感じてきました。

今やっと、この学びの入り口に立って、少し、ドアを開けたと感じています。自分の心の中のすごいエネルギーを感じながら、ただ、ただ、

苦しい、苦しい、苦しい中で、やっとこの学びに今世の今、辿り着きました。そう、自分のこの苦しい心があつたからこそ、今、やっと、この真実の学びの入り口に立たせていただいていると自覚しています。

私はそれだけで「本当によかった」。お母さん、今世、生んでくださって、ありがとうございます。田池留吉、真実を指し示してください。本当に、ありがとうございます。私の中の闇さん達、あなた達のお陰で、やっと、やっと、私も、今、ここまで辿り着けました。本当にありがとうございます。ありません。そういう思いで、今、この学びのドアの前に立っている自分の心を感じています。これからです。私も、やっと本道の入り口に立っていると実感しています。足を踏み入れるのは、これからだと、自分で

しつかりと、自分の足で歩いていきたいと、自分に言い聞かせています。

肉の私は、本当に愚かながらも、それに従いたいと、これこそ私が心から求めてきたものだという思いを、今、やっと自分の素直な心に戻って、田池留吉の目を見つめると、今、自分が本物の学びの入り口に立っていると、実感します。

これから自分の闇に、一つ一つ出会って、直面して行って、自分の中の優しい温もりでしっかりと抱きしめていこう。そして、自分の心で一歩、一歩、真実に向かって、本当の自分に向かって、お母さんの優しい温もりにも蘇っていこう。そういう道を、これから歩いていこう。自分の多くの闇と共に、過去も未来も、今の自分と一つになって、そう、二五〇年後のアルバートに向かって、次元移

行に向かって、しつかりと歩いていこう。そう心の中から思っている自分を実感しています。

ありがとうございます。ありがとうございます。「すべては愛、すべてよし」という思いが、いつも、優しく、温かく、心の中に響いてきます。

厳しい道のりだと、険しい道のりだと、そう聞かされています。でも、もう、後ずさりはできません。

この田池留吉の心の道しか本道はありません。そう、自分の心の中は確信していします。肉をそれに沿わせていくことが、今の私の大きな仕事です。肉を選ぶか、本当の自分に戻ることを選ぶかの分かれ道に立っている自分をも感じています。決意を改めて見つめています。

これしかない、このために生まれてきました。このための人生です。

今世こそ、それを少しでも果たしたい。そのようにはつきりとした強い思いが心の中から、今、湧き上がってきます。

肉は、それに応じて、素直になくなって、そう、心と一つになつて進んでいこうと、それが、私の幸せ、喜び、その入り口に立っていると、感じています。

ありがとうございます。



■自然治癒力の体験談

▼うつ病になって思うこと

神奈川県 早坂克浩

私はうつ病になり、医者に行くと最初は、精神安定剤等の薬の量を調整する治療法と言っていたが、カウンセラーの人は心の状態など分かるのかと思っていたが、結局、薬の量を増やせば良いと勘違いしている様な気がしてきたので、薬を飲めば良いのかと、最初は飲んで良くなると思っている患者は、薬がないと薬中毒の様になっていました。

私もなり出した頃は苦しくてしようがなく、死のうかと考えました。その頃、田池先生に相談した時もありました。私はよく、このセミナー

と田池先生が消えれば、こんな苦しまなくてすむのではと思った時もあり、でも、これに出会わなければどうなったかなーと思うと、自分の心を見れば良いのかと思いついて、未だ喜びは出てこないですが、田池、アルバートと瞑想すると、体が振動しだすのが最近酷くなっています。でも、肉の自分に分からないが中の意識は喜んでいいのかなーと、瞑想しています。

ひとつ思うには、薬では治らない、自分の意識に会えない限り無理。

▼私の自然治癒力の体験談

アメリカ 西田博史

私は若い頃に二回、病気をして入院したことがあります。一回目は

二十三歳の時。タイ、ネパールを放浪していた時にかかったA型肝炎。体調が悪いにもかかわらず無理して旅を続け、ようやく日本に帰って来た時にはふらふら。ビール瓶色の尿が出るので、病院で検査を受けたところ、肝機能を表す数値がめちゃくちゃ。即、入院となりました。なんでも無頓着で（無頓着なふりと言った方がいいかも知れません）、その辺にあつた古い水を飲んだのがきっかけだったと思います。こんな性格なので治るのも遅く、三カ月は病院にいました。

二回目は二十五の時。無理して仕事をし、自分を顕示するのが好きな、欲々な私は、海外転勤直後、滞在先のホテルで咯血が止まらなくなり、入院。その時の診断は肺塞栓症？とか言うものですが、日本に帰っ

て検査したところ、結核だと診断されました。昔の文豪のように面白いほど血を吐きました。これは最初の

A型肝炎の時もそうでしたが、入院の最初の二週間はとてもしんどく、意識も朦朧<sup>もうちょう</sup>としてるような感じでした。その時、ドイツの病院でふと思いました。「今度やったら死ぬ」。ドイツで何週間か入院し、そして日本でも一カ月半入院し、結局退院してもこの性格は変わらず、何度か「このままではやばい、また病気になる」と思いました。結局、会社を辞めました。

会社を辞め、色々悩んでいる時に、この学びに出会いました。もちろん色々な動機もありましたが…。私は小さい頃から呼吸器系統の病気をよくしました。風疹に二回かかったりと身体的に免疫力が低いのもある

のかも知れませんが、そう言う以前に自分の気管を締め上げる思いが強かったように思います。

毎回そうですが、風邪をひいた時には「なんで風邪ひくんだろう？」どんな思いなんだろう？」と思うのですが、なかなか答えが見つからない時があります。馬鹿な私は、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」というのを地で行っており、病気が治れば心を見るのを怠ったり、病気になったらなつたで、また人のせいにしたりしてしまいます。でも実際は、凄く思いを自分の気管に使ってるのだと思う時

があります。それが結局、肺や他の呼吸器系統に影響し、病気を引き起こしてるんだなあ、たまに実感します。いくら医者に行っても「原因不明だ」と言われ、ふとその事に気づくと体が軽くなって、直ぐに治っ

てしまったなんてこともざらです。

結局は自分の思いなんだなあと思います。自然治癒力を働かなくするのも…。そういや結核の時も、「自分が間違ってたなあ…」と思った途端、急に体が良くなっていったなあ…。本当、自然治癒力が働かないのがおかしいのであって、働くのが当然だと思えます。そう思うのですが、いつも風邪をひく私は、何回同じことを繰り返しさえいいんだろうなあ…。つくづく愚かな自分だなあと思いません。

▼あるでき事を思い出して

兵庫県 定永富美子

九月三十日のホームページ（トップページ）を見て、あるでき事を思

い出しました。今年六月の初めての事です。母のいる施設へ昼頃訪ねました。私が着いた時、ちょうど母が治療室に移され寝かされたところでした。熱中症にかかり四十度の熱が出た。呼吸も荒く、声をかけても答えられない状態でした。さわるととても熱く、人間の体がこれほど熱くなるとは知りませんでした。それほどびびくりするくらいの熱さでした。冷やしたタオルで拭いてもすぐタオルが熱くなり、いくら洗ってもタオルは熱いままでした。

その日は医師の往診があつたので、翌日、又、出かけていきました。やっと熱は三十九度台になり、呼吸は昨日ほどではありませんでしたが、本人は相当苦しそうでした。でも言葉は少しかわせるようになり、ゼリー状の食べ物も少しだけ摂れるように

なりました。依然として体は熱く、保冷剤をタオルに包んで額や顔、首を冷やし続けました。母は「気持ちがいい」と少しほほえんで答えてくれました。看護師ら、施設の職員達

はこのような事はすすんでしないことも分かりました（余談ですが）。母のそばにすわって、時折、母の顔や手をさわって熱いなア、昨日すぐに入院させてくれた方が良かったのではないかと内心思ったりしていました。その間もずっと冷たいタオルで冷やしていましたが、体は熱いまま、タオルも熱くなるだけでした。そして、少したつた頃、何気なく母の顔に手をやりました。冷たい！ えっ？ 手も……冷たい！ 何？ あっ、呼吸をしていない！ 全くしていない……内心焦りました。普通肉体をはなしても、しばらくは体は

あたたかいことは知っていました。しかし、さつきまであんなに熱かったのに、氷のように冷たい……そして呼吸も……ど、どーしよう。

看護師さんと呼ばうか、医務室を見ても誰も気付いてくれません。この間わずか二、三分だつたと思えます。何かしなければと思いましたが、その時、心でアルバートと自然に出てきました。助けてくださいという思いは全くありませんでした。ただアルバートと思っただけです。小さくつぶやいたかもしれません。次の瞬間、母は目を開け、呼吸をしていました。体も手もあたたかでした。ホッとしました。——こんなことがあるのだろうか——家に帰って思いました。母は、母の肉体細胞は私に何かを伝えてくれていたのだろうか。訳の分からない私（肉）は「常にア

ルバートを思いなさい」と言われていたのだと勝手に今まで解釈してきました。それにしても不思議な体験でした。

もし、これが本当に、何かを伝えてくれていたのなら、母が熱中症になったのも愛、その原因の一つである職員達の不注意——その日は関西で今年一番の暑い日と新聞に載った日でした——そのような暑い日にもかかわらず、床から天井までガラス張りの部屋の窓際に寝かし、大汗をかいて苦しんでいるのも気付かず、食事も済んで大分たってから、やっと気付くという施設の落ち度など、すべてが意識の世界で計らわれていたでき事、筋書きだったと思わざるを得ない……ですよね。

すなわち、すべてが○（マル）……

「偶然は一つもなく全部が必然」これはこの学びをしてすぐに教えてもらったことなのに「これがまだ六月で良かった。真夏だったら大変なことになっていた」と胸をなで下しながら、バカな私の肉は性懲りもなく思っていました。

その時の事をありのままに書きました。

▼自然治癒力を信じていきます

大阪府 岡野栄子

私は人、人、人の大勢出入りする  
 商人の家に生まれ育ちました。人の裏や世間の事、知らず知らず、目に耳に入ります。「強情でても動か

した。両親は不仲で、父は恐く、私はいつも神経がピーンと張りつめたように緊張していました。無心で無邪気な時を思い出せません。しょっちゅう高熱を出し、母におぶさり、お医者さんやお祓いを受けに行っていました。いつもビクビクし、不安定でしたが、黙って普通にしているの誰一人、分からなかったと思います。非行に走ったり、狂ったり、表に出ればまわりもそれなりの対応もあつたでしょうが、この事はずっと長く苦しむ原因でもありません。自分の気持ちなんて考えもしないので、自分の心を正直に、ストレートに、あるがままにとか、全く分かりませんでした。

成長するにつれ、人に合わせる、社会に合わせる術すべを身に付けましたが、心の中で矛盾、分裂し、その為

人と関わると疲れ、何事もうまくいきませんでした。社会に適応せず、自立もできないままでした。小さい頃は、ただ可哀想と思っていた母を、だんだん嫌いになりました。これでもかという程、歯向かい、反抗、反逆、憎しみ、呪い、復讐心、もうありとあらゆる凄まじいエネルギーをぶつけてきました。結婚の時は、爆発しました。

こんなに暴れ狂っていても、本当は母に恐がらずに、一対一でゆっくり向き合ってほしかった。でも現実には、いつものように、家族親類を巻き込み、大騒ぎし、寄ってたかってということでした。私はますます意地を張り、閉じこまりました。母と思うと、瞬間に嫌い！ いや！ でした。狂った心で結婚しました。主人こそ迷惑な話です。結婚生活がうま

くいくはずがありません。淋しい限りでした。

主人は優しく明るく元気ですが、それは当たり前、ないものねだり、要求ばかり文句ばかりでした。主人も面白くなく、家に寄り付きたくないのも当然、淋しくなるばかりでした。

田池先生に初めてお目にかかったのは、その頃でした。三十六歳の誕生日でした。最初から「母の反省心を見つめる」でした。「母」、私は無理と決めつきました。とても高度な学びのようで、ちんぷんかんぷん、雲をつかむような感じでした。私にはとても無理、それがしみついてしまいました。小さい集まりに行くと、先生がお話されているのを聞くだけです。突然、矢が私の心にグサーッと飛んできます。頭をカーンと殴ら

れたり、冷汗、脂汗、たまにジーンと涙が出ます。殆ど、グサーツでした。

瞬間、私の心はやり返します。何倍にもなつて返ってくる。もう、喧嘩、闘い、クソ、クソ、死ぬ、クソ、クソ、悔しいだけでした。心は暴れ狂い、二度と行くもんかと思うのに、また、のこのこ行つては同じ事の繰り返し。いやだとすぐに人から逃げ去る私には珍しいことでした。まわりの人は、和やかで楽しそうでした。私は昔から、目上の人に盾突く、反逆、反抗の固まりでした。そんな自分がいやでも、心は自由に暴れるので止められません。素直な人達がうらやましくなりません。先生は優しさは、何とも言えず、今度、は依存一〇〇%、他力信仰。私は今尚、田池留吉を呼べず、思えません。

母、主人、先生、まわりの人々、



私は自立できない自分を棚に上げ、依存した相手に、とことんの思いを出し続けました。

セミナーには、行きたいだけ行かせてもらいました。夫婦不調和、子供もいます。経済的な事、色々あるのに、行かせてもらいました。学ぶということより、辛く苦しい日常から離れ、ホッと一息つく、先生の元では平等と思えました。結婚生活は、淋しく悲しく辛く苦しいものでした。私は終始、怒り狂ってました。夫は嘘しか言わないように思え、話もかみ合わず、年月と共に深まる情愛、信頼に程遠く、ふと、「この人と私は本当に夫婦なんだろうか」と思うくらいでした。感謝もなく、ただ不平不満の妻、口から出るのは、「金、金、金」ばかり。夫はいくらでも外に楽しい仲間があるようでした。仕事、

遊び、困っている人のお世話と、忙しく人気者で、家族、家庭は興味が無いようでした。現実に、殺し合うことなく、離婚する事もなく、今あるのはセミナーがあつたからとしか思えません。

セミナーが終わるとすぐに、私は狂った昔に戻りました。人、人、人の事がきつかけでした。何一つ真剣に学ばず、身に付けてこなかった結果です。人、人、人の事で私の心は叫び続けました。「私は、皆のうつぶんを晴らすサンドバックじゃない！私の事では当然私を攻撃し、主人の事でも私を攻撃し、他の人の事でも私と関わりあるからと私を攻撃する。私は居たらあかんの？ 死ねと言うの？ なんで？ 私だって傷ついている。シャーシャーとしているよ

うに見えるかも知れんけど、泣きたいくらい傷ついている。「でも、どんなにいじめても私は死なんよ。狂った自分はどうな時間に時間がかかっても自分で直す」。心の中で決心し、私は本当に一人になりました。

夫も用のある時以外は居らず、夜は居ませんでした。いいのかわいのか、淋しいけれど自業自得と半ばあきらめていました。

歩く事、私の唯一の楽しみでした。自然の中をとことこ、どこまでも歩くのが好きでした。ご夫婦で散歩しているのを見ると、うらやましかったです。淋しさや怒りを食べて紛らわせ、不安定ですから夜は殆ど眠れません。体重を落とさないまま、歩き続けていたので、今年の四月頃、とうとう、ひざが痛くなりました。

「歩き過ぎです。年齢と共に、ホルモンバランスも悪くなります。軟骨が相当擦り減っているのです、まず体操、それで駄目なら注射（たまった水を抜き、ヒアルロンサン注入）、それで駄目なら、手術して人工関節との診断でした。軽く考え、体操に通っていましたが、甘かったです。日増しに痛みはひどくなり、やっとやっと日常の事をしておりました。どこか入院してゆつくりしたかったです。六月のある晩、ついに身体が悲鳴をあげました。両足首、両ひざが痛く、ベッドから足を下ろせません。下半身全く動かせない。「どうしよう。どうなるんだろう。これからどうなるんだろう」。涙がこぼれました。「ああ、これが私の姿、心そのもの。一人で立つことも歩くこともできない」。

子供が主人に連絡してくれ、その晩から帰ってきてくれました。主人と他の病院もまわり、整形外科で七月から、注射の治療が始まりました。週に一度を五回、あとは二週間おきです。注射の日は心が萎えます。骨に突きささっているような痛みと、注入した後、身体に異物の入った何ともおぞましい感覚、夏というのにふるえが止まりませんでした。何とか歩けるようになったので、長年、気になっていた人を訪ねました。お互い、いつ死んでもおかしくない年令。生きているうちに会っておきたかったです。会っただけで、もうお互いに終わりました。人、人、人とは言え、元はと言えば、私の心の間違いが作り出した世界です。肉の事とは言え、すつきり学びたかったです。

やっと、やっと、自分の生き方を振り返る時でした。自分に正直に生きてこなかった。自分をないがしろにしてきた。自分を粗末にしてきた。自分を閉じ込めて、その上にあぐらをかき、のさばってきた。もう、嘘の自分に生きるのはやめよう。私には時間がない。

夫がどうのと遊んでいる暇はない。こんな事のために生まれてきたんじゃない。ただ一つ分かってるのは、自分は永遠に地獄の底の底という事でした。肉すらもです。もう、これからは自分を大切に生きようと思いました。

幸い、ホームページはあり、門は開かれています。『その人、田池留吉』の最初に、「田池留吉、アルバートの世界を、波動として、このホームページを通して流してまいります」

とあり、直接指導していただける、ありがたかったです。「メッセージ70」にゼロ歳の瞑想とあり、来る日も、来る日も、分らないところはそのままに、ホームページを読み、ゼロ歳の瞑想をしました。鈍感で何も感じなくても、そうしている自分が嬉しかったです。

そうしたら、あんなに不安定だった私の心が少しずつ安定しているのが分かりました。狂ってもすぐに、ゼロ歳の瞑想、心が戻れるところが出来ました。いつも不安定なので違いが分かりやすかったです。

主人がセミナーに行こうと言ってくれ、私も同じでした。ホームページ同様、何もないようにセミナーの門も開かれていました。ホームページから思ったこと、「前に出してもらえる機会があったら、お願いしよう」。

閉じ込めてきた私との約束でした。素直に教えを乞う謙虚さのない私は勇気のいることでした。

セミナーで出してもらいました。座っているだけで充分でした。約束を果たせたから。母を捨て、好き勝手に生き、ボロボロになり死にかけて、ふるさとの母の元へたどりついた、悪いお手本のような生き方しかしてこなかった私を、田池先生は、ただただ温もりで包んでくださいました。セミナーの帰り、あれだけこだわりのあった先生に対する罪の意識のようなもの、深い溝のようなものが消えていました。片方の他力のほうはそのままでした。ホームページに向かうと、セミナーの時は気付かなかつた事、波動として、心に気付けてもらうことができました。頑固で真面目というのも、まわりの

人を通し、波動で、肉体細胞からは「間違つてきました」というもの。衝撃でした。天と地が逆さまだった。脳天を割られたように呆然としました。

先生にひざに手を当てて頂いた時と同じでしたが、その時は全く分かりませんでした。このあと、何となく心が清々しくなりました。セミナーの後、治療は受けず、色々飲んでいた薬も止めました（耐え切れないう痛みだけを除いて）。欲に欲を重ねる生き方をやめようと思います。傷つけてきたのは、肉体細胞だけではありません。間違った私の心が作り出した世界がまわりに溢れています。身体も少しずつ回復していきます。自然治癒力を信じて生きていきます。ありがとうございます。

## ▼腸閉塞とともに

千葉県 高野篤

私には腸閉塞の持病があります。

腸閉塞は、腸管内腔が何らかの原因で狭窄・閉塞し、その前後が分断されて、内容物が通過できなくなる病気です。症状としては、激しい痛みや嘔吐を伴うことが多く、放置すれば大事に至ることもあるようです。

私の最初の発症は、十一年ほど前の三河三谷のセミナーでした。一日目の夜に腹痛を感じ始め、二日目になって更にそれが激しくなって、我慢できずに午前中だけで帰宅させてもらいました。激痛で朦朧もうろうとしていて、どうやって千葉市の自宅までたどり着いたのか、ほとんど記憶しておりません。

腸閉塞の発症要因は多岐にわたるようですが、私の場合は、小腸付近に癒着が見られ、そのために腸管の一部が極端に細くなっていることが、その後の検査で分かりました。二十数年前に行った開腹手術(胆嚢ポリープのため胆嚢を摘出した)の後遺症というのが、医者の見解でした。要するに私には、腸閉塞になりやすい条件が備わっているということです。

その後たびたび発症するようになりました。起こりやすい条件を持っていることは分かっても、何が直接の引き金になるのか、初めは皆目見当が付きませんでした。ただ、自分の中で何となく引っかかるものを感じていたのは事実です。

それは三河三谷のセミナーで、午後の休憩のとき、廊下に用意されて

いた氷の入った冷え切った水を一気に飲みしたことでした。夏場で闇出し現象が盛んだった頃で、余程喉がカラカラになっていたのでしょうか。しかし、当時の私はその程度のことばかりではありませんでしたし、腹痛が出てきたのがかなり時間が経過した真夜中ということもあって、休憩時に飲んだ水と、直ぐには結び付けることができませんでした。冷たい水が関係していると自分の中で確認できたのは、三回くらいの発症を経てからでしょうか。

腸閉塞は、食べた物などが詰まって閉塞状態になると思われがちですが、必ずしもそうではないようです。私には詰まったという感じはありません。それよりも前述したように、

冷たい水をガブ飲みした時など、外部からの刺激にたいして自己防衛のために、胃腸が自ら収縮しているという感じ、例えばよくないですが、塩を掛けられたナメクジがきゅっと縮こまる時のような感覚です。

私の場合には特に冷たいものに敏感反応するようです。今は常温以下のものは飲まないように、心掛けています。その他、よく嘔む、詰まりやすいもの（例えば糸コンニャク）は避ける、便秘に注意するなど、普段のことに気を配っていかなければならぬのはいうまでもありません。

そんな注意を払っているにも拘わらず、腸閉塞は依然として出てきます。むしろ頻繁になり、程度も厳しくなってきた感じがあります。ここ二〜三年は年に二回程度、今年

も七月に二週間の入院を余儀なくされました。

癒着性の腸閉塞には、完全な予防法や注意点はないといわれていますが、しかしそれは医学的な知見であって、私の中から返ってくる答えとはまったく別物でした。中からは、「完全な予防法はあなたの中にあるんですよ」といわれます。「あなたには自然治癒力があるんですよ」と返ってきます。それなのになぜ私に腸閉塞が起るのか……、それはあなたの心が未熟だからです。冷たいからです。肉體細胞に優しくしないと。そのことはあなたの心を見れば一目瞭然でしょう。肉體細胞の思いを聞けば疑問の余地はないはずです……

できないでいる自分……そんな自分にもどかしさを禁じ得ませんでした。しかし、その一方でこれでよかったという思いもあります。腸閉塞は、私にとってペースメーカーの存在です。一緒に付き添い先導してくれている仲間のような気がします。私の心の実態をはつきりと見せてくれます。心の進展に合わせてハードルを設定してくれているようにも感じます。

肉體細胞に心を向ければ、「もっと優しくなってください」の思いが伝わってきます。「私たちはあなたの冷たさに耐えられないだけです」の思いが届きます。すべてが私自身の心の結果であることを知らせています。完全な予防法、解決法は自分ももっともつと優しくなること、温かい人

間になること、それ以外にはないことを私は学びました。

昨年は九月、十月とたて続けに発症しました。これではあんまりだと、医者から手術の提案がありました。癒着を解消すれば発症しにくくなることは間違いありません。但し、手術には再発のリスクが伴います。いつ再発するか予測できないこともあって、医者もこれまであまり積極的に勧めなかったようでした。私の中には勧めなかったようでした。私の中にも当然抵抗感があります。しかし、激痛に苛まれる苦痛や妻への負担（病院通いだけでなく、朝夕の犬の散歩などが一気に被さる）、いずれ手術することになるなら体力があるうちにといい思いなど、あれやこれや家族とも相談して、最終的には「今度起きたら手術する」ということを

受け入れました。

そして、今年の七月、いよいよ手術ということで、覚悟を決めて入院しました。担当も外科医に変わっていました。ところが、その結末は手術中止でした。造影検査で閉塞箇所が確認できなかったのです。勿論、癒着が改善されたわけではなく、ただ単に検査時点で閉塞状態が解除されていただけなのですが、いずれにしても、その場所が確定できなければ手術することはできません。それを医者から聞かされたときは本当にホッとしました。ありがたいと思いましたが、手術は認めざるを得なかったものの、内心忸怩たる思いでいっぱいだったのです。

私はチャンスを与えられました。自然治癒力の愛を、パワーを、その

素晴らしさを、自ら実証していくためのチャンスに巡り合うことができました。発症間隔を一年、二年、三年と延ばしていくことができれば、それは私の心の成長の結果と受け止めてもいいのではないのでしょうか。手術をしていたら私は自然治癒力の、田池留吉・アルバートの世界の証し人になることはできませんでした。

確かに私は、腸閉塞といういつ爆発するかも分からない不発弾を抱えています。しかし、それは私の心を見つめるための教材として働いてくれています。その思いを通して、心の間違いに気づかせてくれます。

「あゝ、苦しい、苦しい、苦しい。あなたのその冷たさが苦しくてなりません。耐えることができません。もつと優しくなってください。私た

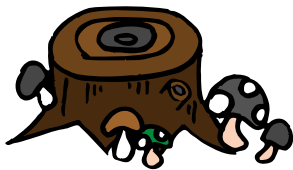
ちを苦しめないでください。私たちが肉體細胞はあなたを一生懸命支えています。どうかその思いに気づいてください。手術は止めてください。もうこれ以上私たちを苦しめないでください。」

手術しないで本当によかった、今の私の率直な気持ちです。肉體細胞にたいして、ごめんなさいとありがとうでいっぱいです。

私は、腸閉塞という病氣を通して、病氣がどんなに愛として存在していたか、喜びとして働いていたかを知ることができました。病氣とは闘うものではなく受け入れていくもの、その言葉が心に沁みます。本当にその通りでした。

私たちは、宇宙という自然治癒力、

自然治癒装置の中にすっぽりと包まれています。自己再生システムの中で愛され、生かされているといつてもいいのかもしれない。そのことに感謝し、そのことを喜びながら、私はこれからの人生を、癒着とともに、腸閉塞とともに、アルバートを目指して、まっすぐに歩いていきたいと思います。まだまだ先行きは未知数ですが、その思いを心に刻んで、瞑想、反省に力を注いでいきます。ありがとうございました。



## ■手記

▼この学びに出会えて

アメリカ 三枝京子

この学びに出会っていなかったら、私は、また人生を悔い死んでいったと思います。

苦しい人生しか歩いてこなかった転生の数々でした。田池留吉に出会って始めて、人生は喜びだったと実感すると同時に、実際、人生が喜びになっただけでした。

それは、瞑想と反省を繰り返す中で、段々と深まり、広がっていきました。母を嫌い、母を憎み、自分自身をないがしろにしてきた私でしたが、結果、今世ほど幸せな人生を私は歩いたことはありません。大好き

なニューヨークの地に住まわせてもらい、心の中の思いの従うままに生きていつています。そして、私の中では、もう来世がすでに心の中で現実となり、喜び喜びでいます。

真実が分からないほど、苦しい人生はなかったです。自分が何の為に産まれ、そして、死んでゆくのか。人生とは何なのか。神とは……等々、心の中でくすぶり続けた数々の疑問は、既に私の心の中では明確になっています。

そして、やっと今世、私はこの肉ではなく意識であったと、信じることが出来ました。私は、遠い遠い宇宙の果てから、田池留吉を目指し、田池留吉を殺しにきた意識でした。自分の中に大きな闇を抱え、それでも、己が正しいと、田池留吉に徹底抗戦を掲げて、宇宙の果てから、こ

の三次元に降りてきました。私は、私の宇宙を掲げています。

でも、二〇〇〇年から、このニューヨークから通い続けたセミナーの中で、自分は間違っていたことに気付かせて頂きました。あれほど、己が正しい、己が何ほどのものかと、掲げてきた私でしたが、セミナーの数々の現象を通し、また、反省を通して、間違っていたのは、この私だったことに気付いたので。

人生は、苦しみでしかありませんでした。肉で、どんなに満たされても、私の心は一時として心から満足することはありませんでした。それは、今世に限らず、私の過去世達も同じだったと、過去世達が私の心の中で語りました。

一度きりの人生ではなかった。私と言う本質は、何度も肉をかえ、真

実に巡り会う為に、転生を繰り返してきたことが、心の中で明確になりました。田池留吉に初めて出会った時の先生の一言で、この人はただの人ではない、私の苦しみ、私の全てをこの人は分かってくれている……と言ったことが、一瞬にして私の心にきました。それは、不思議と言えば、不思議ですが、私は、そのような人生を既に歩いていたので、出会うべき人に出会えた、という安心感のよくなものが、始めからありました。あれから、何年……セミナー、セミナー、でした。

全てが、協力してくれました。私の宇宙が協力してくれました。私の目覚めが大切だったから、宇宙がこぞって、協力してくれました。……全て全て自分で計画してきたこと、一言で言えばそうなりますが、この



ニューヨークから、年間五〜六回と  
 通い続けることは、普通から言えば  
 出来ないことだったと思います。で  
 も、私の心は、セミナーにありました。  
 やつとやつと、一番大切なことに  
 会えた、だから全てが、当然でした。

私の人生は、出会う前、出会った  
 後、そして、今と、全く違います。

存在しません。その時、肉は既にな  
 なくなっていました。  
 これが、次元移行だったんですね。  
 アルバート、ありがとう。私はあな  
 たと、共に歩いてゆきます。ありが  
 とう、ありがとうございました。

人生は、喜びであった。そして、  
 人生が、私の周りで喜びとして展開  
 していつています。本当にお天気で  
 さえ変わってしまいます。全て全て  
 田池留吉、アルバートのお陰です。  
 私は、生きていて良かった。アルバ  
 ートに出会えて良かった。

でも、私は、今世、一番大切なこ  
 とを始めました。だから、後は、続  
 けてゆくのみです。来世が待ってい  
 る、ニューヨークが待っている。い  
 え、私は、私の来世、そして、ニュー  
 ヨークと、共に生きています。心が  
 広がってゆきます。宇宙の果てまで  
 広がってゆきます。心が広がってゆ  
 きます。

▼今、思うこと  
 広島県 江本隆  
 現在、精神病院に通院をしていま  
 す。不安神経症から始まり、パニッ  
 ク障害を経て、今は、うつ病の治療  
 をしています。途中、安定剤・睡眠  
 剤の飲みすぎで椎間板ヘルニアが三  
 力所も出て、その治療を週に三回の  
 通院が、毎日の日課みたいなもので  
 す。

何もかも、何もかもが消えてゆき  
 ます。でも、私の心の中で全てが甦っ  
 てきます。愛が何なのか分からなかつ  
 た。でも、今は、私の心の中で愛が  
 しつかりと、根づいています。お母

みんな、みんな共に帰ってゆこう、  
 アルバートと共に、アルバートの元  
 に帰ってゆこう。そこには、愛しか

セミナーに行きたくても、現在、生活保護を受けた生活で、経済的余裕はありません。

田池先生から、CDをいただきました。とてもびっくりしましたが、嬉しかったです。

去年、父が他界しました。とても元気でしたが、あつという間でした。

私が、精神的に不安定になって、六月～一月まで実家の山口に帰り、母と父と三人の生活でした。翌年の一月、急になくなりました。「母が、隆が帰ってきて、父さんがとても喜んでるよ」と顔を見るたび、口癖のように母が言っていました。母も嬉しかったのでしょうか。

脳梗塞を十数回繰り返し、入退院も終わり、家で母と二人暮らしでし

た。

ちょうど帰った頃は、少し痴呆が進み、とても穏やかでした。

デイサービスの送り迎え、毎日の入浴介護、歩行器を使つての散歩の付添と、一通りの親孝行が出来、私も本当に充実した穏やかな日々でした。

私が椎間板ヘルニアの治療のため実家を離れ広島に帰つたため、気が萎えたのかもしれませんが。

父の葬儀は盛大で、お寺のお坊さんが来て、御経をあげました。

学びに出会え、何が一番良かったかというと、父に感謝出来た事です。

父は若い頃、土木造成業を営んでいました。駐車場には黒い高級車が並び、プレジャーボートも二台持つ

ていました。経理課長がお金を持ち逃げしてしまい、倒産しました。

倒産してからの父は、毎日が、酒を浴びるように飲み、意識が全くなく、別の人格になったように家の中はめちやくちやで日本刀を振り回す姿は鬼のようでした。酔いがまわり、別の人格になると、母は子供たち全員を車に乗せ、親戚の家へ避難する毎日でした。子供たちをお風呂に入れていた時、母がつかまり、顔は腫れ上がり誰かわからないほど暴力をふるわれ、母が風呂場にいる子供たちを守るため、必死で体を張っている姿が思い出されます。

はつきり言って父は嫌いでした。

その頃、叔母の勧めで、立正佼成会に家族で入会しました。見たことのない人達が、家に来て御経をあげて

いました。裏山に沢山椅子を並べ御供物をささげ、山の霊を鎮めるためだったようです。この山の上に無縁仏が沢山あり、山を削り真砂土をダンプで運んでいました。その時に人骨があふれ出たのです。

この山は四軒の持ち山でした。その骨をお寺に持っていくと、お坊さんが一週間後に交通事故で死に、我が家は倒産、他の三軒の家族もトンネル内で生き埋めになる、近くのビルから飛び降り自殺、畑で灯油をかぶり焼身自殺した者や、ことごとく一家が断絶していったようです。

そのことが立正佼成会に入れば助かると思ったのでしょうか。私も連れて行かれ、小学五年生で少年部に入り、学生部、青年部に入り、この学びをするまで家で御供養をやり続けました。

今考えれば本当に愚かなことです。が、それしか知らなければ、すがって、祀って、自分だけは、の欲一杯の世界でした。「大難が中難に、中難が小難に、小難が無難に」を信じて、御経をあげ続けました。

方位や占い、手かざし、宇宙のパワーに至るまで本気でやり続けました。ナポレオンヒルに始まり船井幸雄、様々な自己啓発書、精神世界書を読みふけり、本気で二〇〇歳まで生きられると信じていました。

この学びに触れたあとでさえ、高橋信次のホームページを見つけ、こっちこそ本物のエルランティに間違いないと講演会ビデオ、音声ファイル、著書も読みふけり、聴き続けました。納得できる事もあり、納得できない事もありました。

今考えてみれば、田池先生のホー

ムページ、セミナーの音声ファイルをいくら聞いても嘘くさく、確信が持てないまま、だからと眺めていました。

エル出版から出ていた本もほとんど読みましたが、家族の反対もあり、なかなかセミナーに行く運びとはならず、二年が過ぎ、一二月の最終セミナーに一回だけという条件でセミナーに行くことが出来ました。

『意識の流れ』『ありがとう』を読み、瞑想もして行きましたが、あまり心に響くこともなく、セミナーが終了しました。

その後、新しい人の勉強会全部と瞑想会、第一回UTTA会に参加しました。仕事は自分のペースでできる仕事でしたので一日中セミナーの音声ファイル、著書の音声版を聞いていました。もちろん、お酒もたばこ

も吸いませんでした。

一日中、ぴょんと跳ねると「ふわぁー」と体が浮きそうなほどバラ色に輝いていました。

ただ、お金が絡むことを考えると胸がざわざわしました。

少しでも、欲な気持ちが出てしまい、なかなかお金は難しいものだと思います。

息子と出席した瞑想会で初めの瞑想の時間、体が急に反応し、口から異語が飛び出し、体が反応しました。

自分は出来たと有頂天になった結果、残りのセミナーでは異語が出ることも、体が反応することもありませんでした。田池先生が「欲と私は合わない」とよくおっしゃっていましたが、本当にその通りだと思います。

その後、妻の浮気相手を捕まえ慰謝料を分捕りました。

その頃から、体がおかしく、だるい・やる気が出ない・体が動かないなどで、仕事を辞めました。その時も会社を相手取り、退職金をたかりました。

その後、精神科を受診するようになり、生活保護のお世話になり、時間一杯あるのに学びは一向に進まず、薬は増えるばかり。

飲まなかったお酒、吸わなかったタバコと、もう田池先生の教えとは全く逆を走っています。あちらこちらにクレームをつけ、高額な商品を受け取り。

やっていることはヤクザと変わりありません。

セミナーに行きたい。

セミナーに行きたい。

今は、それだけです。

## ■感想文

▼テレビ番組を見ていて

大阪府 垂水とみ子

八月一日、この学びに集って十七年の学びになりましたが、昨日、プロレスのテレビ番組をちょうど観戦していて、カンボジア地方のほうにプロレスの方達が四人、その土地に遠征に行かれました、何も無い小学校に行かれて、何をしたらば子供達が喜んでくれるのか、縄跳び、赤白の玉入れ、徒競争、何が好かれるのかと計画されていました。喜びの少ない子供達に好かれるものを行うことでした。

度々、私もこの番組を見ています、何気なく見ている私の心から、涙が、次々と、涙がたくさん出て、私の今までの冷たい心を感じて、自分の心で、命をくれた過去世の方々にごめんなさい、命に「ありがとうございます」「ありがとうございました」、そんな思いが湧き上がってきました。

昨日は、母の反省をしていくことが、自分にありがとうございますということだと思いました。

プロレスを、「カンボジアの子供達に見てほしい」と闘われ、子供たちも、その思いに応えるように喜んでいました。

この学びにありがとうございます。ありがとうございます。

▼頂いたメールより

● UTA会日より、UTA会セミナーと、お世話を頂いておりますことに感謝しております。

『UTA会だより第二号』をお送りくださいます、ありがとうございます。

メッセージ25に、『あなた、このまま死んでいつていいのでしょうか』の154〜158ページを心で読んでくださいという文面で、また、その本を取り出して、そのページを開けましたところ、忘れておりましたが、私なりに心に感じていたのでしょうか、文面の六カ所に傍線が引いてありました。

再びそのページを読み始めるとともに涙が止まらなくなり、その日は

本を思い出すだけでも涙があふれる始末、肉では鈍感だと思っておりまして、でも、焦らないでという言葉で自分なりにやっておりましたが、これほどまで、中の意識の必死な思いを感じさせていただきましたのは、初めてのことでした。

態度、言葉でなく、自分の中にある優しさ、温もりを信じれば、自然と喜びで生きていけると伝えられておりましたことに、『意識の流れ』の本との出会いで学びに繋がった私は、毎日、毎日が生きている喜びで過ごさせていだいております。

本当に、ありがとうございます。  
(Kさん)

● いつもお世話になり、ありがとうございます。今日、本が届きました。五月のセミナー会場でいち早く購入

させてもらい座右の銘としていますが、UTA会から届く郵便物はただうれしく、なんだかふるさと宅急便みたいです。(Oさん)

●お世話になっています。これからも、よろしく頼みます。少しずつ勉強がやっと嬉しくなりかけています。田池先生に香世さんにありがとうございます。さようなら。(Tさん)

●「新刊本『その人、田池留吉』のお知らせ」

このお知らせ自体が、すんごいうれしかったです。ありがとうございます。いつもお世話になっています。

(Yさん)

#### 【体験談・感想文の募集】

UTA会では、この学びに出会って、田池留吉に出会って等の体験談(手記)やUTAブックから出版されている本を読んだ感想文などを募集しています。

また現在は、「自然治癒力」ということで、皆さまの病気を通してこの学びを実践された体験談も募集しています。

頂いた原稿は、このコーナーなどで皆さまに紹介していく予定です。

原稿は、下記UTA会の原稿受付専用メールアドレスまで、Eメール、またはEメールの添付として送っていただければ助かります。もちろん、郵送でも受け付けいたします。

#### 【メッセージの募集】

また、UTA会のホームページでも案内していますが、UTA会では毎回テーマを設け、日々の瞑想を通して皆様が受けたメッセージや、そのときの感想をお寄せいただき、同じくこのコーナーで発表していきたいと考えています。

現在のテーマは、UTA会のホームページでご確認ください。

文字数は1,000字前後で、お願いいたします。体験談や感想文と同じく、原稿受付専用メールアドレスまで、Eメールでお送りください。

たくさんのご応募、お待ちしております。

#### 【送り先】

原稿受付専用メールアドレス：info@utakai.net

郵送での宛先：〒819-1136 福岡県糸島市美咲が丘2-5-1

UTA会 中村康一



# メッセージ

UTA会のホームページに掲載しています『私はあなた、あなたは私、ひとつ』のメッセージ、二七から五〇までです。

二七、秋葉原の無差別殺傷事件から、

一年が経ったという報道に触れ、別にこの事件だけが特異のケースではないけれど、人間の心の暗闇の世界を思いました。幼少時代のことや、当時の心の状態を振り返っていると、このことですが、本人にも、動機の解明はできないだろうと思います。色々な社会等に対する不満はあっただろうけれど、そんな単純なものではないと思います。そして、それは、決して他人事ではなく、条件が揃っていけば、心の底に眠るエネルギーは、例えば、あのような形となって暴発していく危険性を、誰しもが持つて

いると解釈できると思います。

それだけのエネルギーを、人間は、心の奥底に秘めている、蓄えてきた、少なくとも、学びに繋がった人は、その認識を新たにこれからの時間を経ていつてください。

二八、肉に流れながら、決して流さ

れない生き方ができれば、もう我が行く末に、安心立命でしょう。自分の姿、自分の存在、はつきりと心に感じてくれば、これから描くシナリオは、完全に喜びの道、驀進ばくしんです。

私は、瞑想をすれば、思いを向ければ、そのことが心に響いてきます。だから、肉は、淡々と日々の生活を送ることができます。

そうでなければ、今頃は、まだおそらく、我が身の安泰を願い、我が

行く末に、汲汲きゅうきゅうとするだけの人生だったでしょう。

一体何のために生まれてきたのか、無念のうちに生涯を閉じていくことだけは、今世、お止めください。どんなに愚かでもいい、ただ自分に誠実に生きてください。

二九、切なる思いが心に響いてくれば、肉の生活は、きちんとします。道徳や規律などで、自分を縛らなくても、肉がどのように動いていくのか、自然のリズムに沿った形をとっていきます。

切なる思いが心に響いてくれば、自分は何のために生まれてきたのか、何をするために生まれてきたのか、どう存在していけばいいのか、そういうことが、自ずと分かってきて、

自分と自分の他には、何も存在しないことを感じます。それが、田池留吉、アルバートとひとつ、私達はひとつの世界です。ひとつに溶け合う喜びは、決して肉では分かりません。

三〇、本当の優しさは、真実を知っている心に裏打ちされます。だから、本当の優しさは、厳しさを伴ってきます。

自分に優しいというのは、真実を求めてやまない本当の自分に誠実に、そして、真摯に応えていく優しさを言います。

肉の優しさに慣れ親しんできた心が、その優しさと厳しさを分かってくことは、難しいです。難しいというよりも不可能です。

不可能なことを可能にするために

は、どれだけのエネルギーを必要とするのかということでしょう。そして、もちろん、そのエネルギーを十分に受け止めていけるだけの肉の体力、気力が必要ということにもなってきます。

三一、波動は正直です。今、私は、その勉強をさせていただいています。

意識を向ける、波動を感じる、そして、それを言葉に置き換えてみると、今現在、「あなたの意識です」のところ、掲載している通りです。

お分かりのように、その人を特定しているようではありません。

「あなたの意識です」とありますが、すべてに共通する意識の世界です。

読まれて、どのような思いが出て

こようとも自由ですが、それが喜びに繋がってこなければ、自分の基盤は肉だと思ってください。

もちろん、肉を基盤として喜んでいられる場合も充分ありますが、少なくとも、反発、軽視、無視、そういった類の思いが出てくるならば、おそらく、あなたの学びの方向は完全にズれていると思っただいいいかと思います。

三二、意識の流れは、あなたの心で感じる波動の世界です。

正しい手順に従って、自分の中を見つめていけば、自分の中の切なる思いに触れることができます。いいえ、切なる思いが、ドーンと響いてくるのです。その思いが、自分に肉を持たせたと心に響いてきます。



そうなつてくれば、嬉しいというか、ありがたいというか、だから、あとの肉のことは程々でいいと自然になつてきます。

程々でも充分楽しい、それよりも何よりも、自分のこれからのことを思う時、何とも言えない喜びと幸せを感じてきます。

それが、自分の本質に触れていくということでしょう。自分の行く末には、間違いなく喜びと幸せが待っている、そのために今がある、いいえ、喜びと幸せの今があるからこそ、これからもそうなんだ、意識の流れを心で感じていけば、そう確信していきます。

三三、自分の中の流れを変えることは、並大抵の思いではできません。

意識の流れは、言うまでもなく、自分の中にあります。その流れを感じ、その流れに融合していく難しさは、学びの時間の長い人ならば、実感されていると思います。

流れに逆らつてきたのが人間です。肉を基盤とする意識です。流れに逆らつてきたことを、今、肉を持つて、それぞれの環境の中で知つていくとしていくのです。それぞれの今の環境は、最高の状態です。さて、自分はそこから一体何を感じ、自分に何を伝えていくのかということでしょう。

もちろん、流れに逆らつて存在してきた人間達です。そんなに簡単に、自分の中の切り替えはできません。現に、地球上において、天変地異を何度も体験してきたけれど、それでもダメだったのです。

だから、これから、宇宙を含む大規模な天変地異を経ることによって、自らを覚めさせようと計画しているのです。宇宙のもくずとなるか、それとも……という時期に、すでに突入していることを伝えます。

三四、田池留吉、アルバートに心に向けたときの私の思いを綴ります。参考にしてください。

異語。

はい、私は、塩川香世の意識でございます。

田池留吉、アルバート、私は、田池留吉、アルバートの中で一つを感じています。肉は愚かです。私の肉は愚かです。しかし、私の意識の世

界は、田池留吉、アルバート以外にはありません。アルバートを求めて、求めて、求めてきた転生を感じます。過去から、ずっと、ずっと、真実の私を探し続けてきたこの意識の世界は、今世、アルバートを知りました。

何がどうあろうとも、アルバートを求めてきた意識でございました。その思いは、とても強いのです。このように思いを語らせていただけたことが、とても幸せです。

田池留吉という肉を持った意識に思いを向けさせていただいています。塩川香世という肉を持った意識は、田池留吉という肉を持った意識に思いを向けさせていただいています。私達はひとつを感じています。

心に一つを感じています。ああ、二五〇年後、その一つが爆発してまいります。私達は、一つでございます。

アルバート、あなたが肉を持つとき、だから、私も肉を持つてまいります。この思いは、誰よりも、誰よりも、強いのです。私は、あなたとともに肉を持つ意識でございます。必ず、あなたと出会うことを、約束してきた意識でございます。

私は、私に証明しているのです。これだけの力強い証明はございません。自分が自分に証明しているのですから。

天地がひっくり返ろうとも、私は、あなたとの出会いを果たしてまいります。アルバート、あなたに出会うために、私は、今生生まれてきた、そして、二五〇年後、生まれてくるのです。

アルバートが肉を持つてくることを、すでに、私の中はキャッチしております。このことは、何度も、何

度も、この肉を通して伝えていきます。肉に伝えていきます。喜びを伝えます。

私の喜びは、半端ではありません。だから、肉体細胞を大切にしています。肉体細胞がなければ、私の思いは、伝えることはできない。

地獄の奥底から生まれてきた思いを、この肉に伝えるために、私は、今、ここに存在しています。半端な思いではありません。他力信仰を繰り返してきた意識になど、私の思いは分

るはずはないのです。私は、そのことを、少しでも、知っていただきたい。半端な思いで伝えるものではありません。このことを受けていくためには、それなりの準備が必要だと、私は、伝えていきます。アマテラスも何もかも、私の中では、ちっぽけになっています。アマテラスのエネルギー

など、私の中では、ちっぽけなエネ

ルギーです。宇宙を支配してきたア  
マテラスです。そして、もつと、もつ  
と、大きなエネルギーも、宇宙の中  
にあるのは、知っています。

しかし、私の目指す宇宙は、そん  
なちっぽけな宇宙ではありません。  
心をアルバートに向けていけば、分  
ります。私の中では、アルバートも、  
もはや、その言葉を口にすることも、  
もう要らない時期が来るように思い  
ます。

二五〇年後が楽しみです。今世の  
私、この時間、十年、二十年、三十年、  
私は、私の中で、喜びを存分に感じ  
ていきます。そのために、肉は、準  
備を万端整えています。誰にも邪魔  
されない私の中の喜び、アルバート  
を思い、二五〇年後を思い、次元移  
行を思い、その先を思う私の計画は、

着々と進んでいます。

三五、死は、突然やってくるもので  
はありません。年老いて死を迎える  
のは、肉の法則で、何の不思議もあ  
りませんが、若くて死んでいくには、  
それだけの理由もあり、意味もあり  
ます。

病死にしろ、事故にしろ、その他  
諸々の災難にしろ、若くして、肉の  
命を落とすことは、確かに周りに与  
える影響は大きいです。もちろん、  
自らの命を絶つということになれば、  
そこには例えようもないほどの暗闇  
の世界が広がっています。

そこに投げかけられた現象を通し  
て、人の命、人生、自分というもの、  
家族の存在等々を見つめ直す大きな  
チャンスですが、そのチャンスを、

ことごとく潰していくのが、肉とい  
う思いです。肉という壁は、そんな  
に容易く崩れ去るものではありません。  
ん。まさしく未曾有の天変地異が、  
唯一最大のチャンスです。もうこれ  
をおいて他には、人類が自らに目覚  
める道はなし、そういうことだと思  
います。

三六、学びから去っていく人が、こ  
れから増えてまいります。今世、千  
載一遇のチャンスを自分に用意しな  
がら、そのような結果になっていく  
ことは、大変残念ですが、それもそ  
れぞれの選択です。再び、二五〇年  
後に合流すればそれもよし、そうで  
なければそれもよしです。

それとは、逆に、これからの転生  
を経て、二五〇年後に歩みをともし

する意識達との出会いも感じています。  
す。

どちらにしても、私には、大変楽しみなこれからです。

これからの大きな喜びを伴う展開を前に、私は、私の予定を淡々とこなしていくだけです。

三七、出会いをありがとうございます。心から感謝です。

響いてくる思いは、確かな喜びを伝えています。そして、その思いとともに時が流れていきます。

思えば、嬉しい。思えば、確かな存在がここにある。

時空を超えてやってきて、そして、再び時空を超えていく、その時間が間に迫っています。

肉を持つ時間を大切にしよう、来

世の私からのメッセージです。

肉を持つ苦しみから肉を持つ喜びへ瞬間移動することが、来世の私は待ち遠しいようです。

三八、U、T、A、文字通り、UTAを心で感じる喜びに、あなたもその第一歩を踏み出してください。

U、UFO。T、天変地異。A、アルバート。

二五〇年後に至る大きなキーワード。そのキーワードを大切に、これからあなたの時間を使っていきましょう。

たくさんの私達の仲間、UFOとともに次元移行していくときを楽しみにしています。

三九、学びの土台は磐石です。

あとは、UTA会という仲間達の親睦の時間の中で、一人でも多くの人が、自分の生き方の方向を変えていこうというふうになられたらいいなあと思っています。

いつまでも苦しみ、悩み、愚痴を言うときは過ぎました。

自分の行く道の方向をきちんと定めるために、今の時間、貴重な時間があることを喜び、喜んでこれからの時間に臨んでいこう、それだけでいいのです。

その思いを確認するために、どうぞ、UTA会に集ってきてください。

四〇、UTA会、楽しい時間をありますがありがとうございました。

時の経つのは速いです。皆さんと

別れて一週間が経ちました。

そうやって、あっという間に二五〇年後を迎えるのですね。

ひとつの大きな転換期を迎えることに、ワクワクしています。

その時には、もうすでに海の底に沈んでいるでしょうが、昔、昔、ともに学んだ場所を、互いに思い起こすことができれば、なおいつそう喜びが増していくでしょう。

私は思い出します。はるか海の彼方に沈んだ場所を懐かしく、愛しく思い出します。アメリカ、ニュージャーシー、ハドソン川とともに、私の最高の場所でした。

四一、勘違いなさらないください。

目覚めとは、真つ黒でどうしようもない自分に目覚めるということで

す。

私は、確かに自分に目覚めました。地獄の奥底の底を這いずり回ってきた自分に目覚め、そしてそこから、一気に浮上することを成し遂げました。二五〇年後の来世は、その総仕上げです。

真つ黒でどうしようもない意識だと目覚めたから、もう絶対に後戻りはしない決意で生まれてきたのです。

後戻りをするということは、私には、もう何にもない、未来永劫暗黒の中に沈む意識、私は、その思いを持って、今世に臨んできました。

その結果、未来永劫に続く私の道を確認したものとして、今、ここにあります。私は喜びです。

四二、この学びを本気に始めてみよ

う、本当に自分の軌道を見つめ直してみよう、まずはそこからです。自らの決意、決断なくして、何も変らないです。

いくらか互いの関係が良くなった、心が軽くなった、学びの過程ではそういうこともあるでしょう。

しかし、そんなところではありません。それらは副産物に過ぎないです。

自らの軌道を変えていくことを、自分に誓った思いはすごいです。

私は、自分自身を感じて、つくづくそう思っています。

第二の人生に差し掛かっている人、たくさんいるでしょう。

本気に学びを始めてください。

四三、私は、今、自分の来世にどん

どん思いを向けています。私の来世は、二五〇年後です。二五〇年後の私から、伝わってくる思いを心に感じていきます。当然、そこには、アルバートが現実という世界が広がっています。

あなたも、ご自分の来世に心に向け、来世のご自分から、今世のご自分に向けてのメッセージを受けていってください。

もちろん、メッセージと言っても、具体的に日本語で語れなくても大丈夫です。そんなことにこだわらず、瞑想をして、心に向けて、過去も今も未来も、今の一点にあることが、心を感じられたならば、それでいいのです。

私は、二五〇年後の私、今の私、過去からの私、もちろん、UFO達もともに学んでいる感覚があり、と

ても嬉しいのです。

学びは進化している、はつきりともう感じられる今、ともに歩む喜びを感じていきましょう。

**四四**、来世の喜びは、計り知れないほどの大きさです。その喜びの来世から、私に伝えてくるのは、どんどん田池留吉、アルバートに心に向けていきなさいというメッセージです。来世の喜びが、私の過去の封印を紐解き、さらに大きな喜びとともに、次元移行をする計らいを伝えてくれます。

まさに、今の一点に、過去も未来も、ともにあることを感じます。私は、私を、まだまだ小さくとらえています。私の中には、アルバートを待ち望

んできた思いがとても強くあって、その意味するところを、さらに自分の中で解き明かしていく喜びを感じています。

**四五**、あなたの来世に思いを向けるということは、あなたがこれから肉を置き、そして、二五〇年後に至る間に、心に向けてくださいということとです。その間、あなたは、いったいどのように存在しているのでしょうか。

二五〇年後に出会いましょうの合言葉は、今、しっかりと自分を見つけてくださいというメッセージです。今世、田池留吉の肉と出会っているとすることは、どんなに凄まじいエネルギーの中に、自らを沈めてきたかということです。

私は、瞑想をして、そう感じています。そして、その思いこそが、私の原動力だ、だから大きな喜びだと感じています。

**四六、** 私は、アルバートです。

私は、今世、田池留吉のもとに集った人達の思いを心感じます。

どうぞ、どうぞ、二五〇年後、私のもとに集ってきてくださいという思いを、伝えていきます。

厳しい転生だと感じます。それぞれの意識に心を向けるとき、ああ、それぞれが厳しい転生を自分に予定しているのだなあと思います。

それは、しかし、自らを正しい道筋に導くために、自分で用意してきた計画だということを、それぞれが心で知っていただくべき。

どうぞ、喜んでその道を歩いてきてください。

田池留吉のもとに集いし人達よ、どうぞ、どうぞ、今世を大切にしていってください。私、アルバートは待っています。

**四七、**二〇一〇年は、飛躍の年にしましょう。それぞれに、バージョンアップをしていきましょう。次元移行という大きな流れに、ともに反応していきましょう。

私、アルバートの思いは、今どんなあなた方に伝えていきます。私達は、今、この地球はもちろんのこと、宇宙に思いを馳せています。

今、肉を持って、宇宙に思いを向け、宇宙に思いを馳せ、遙かなる時を思える喜びを、一人でも多くの人

達に感じていただきたいのです。

宇宙を思えば、もちろん、そこには大きなブラックのエネルギーを感じます。しかし、それが大きな喜びだということが、心で感じられれば、今、どんな幸せの中にあるかが、心にどんどん響いてくるでしょう。

学びは、どんどん進みます。ただ一点、次元移行に向けて、どんどん進化します。

**四八、**誰一人例外はありません。特に、今世、田池留吉と出会い学びに集ってこられた人達は、宇宙に真っ黒なエネルギーを垂れ流してきた意識達です。そのほんの一端をご紹介します。

意識の流れが、その暗黒の宇宙に、ともに歩いていきましょうといざ

なつてくれています。

あなたも、そして、あなたも、決して他人事ひとごとではなく、ご自分の宇宙を、どうぞ、今の環境の中で心を見ることがより、感じていってください。

そして、どうぞ、ご自分とともに生きていく時間にしていってください。

喜びはあなたの中にあります。暗黒の宇宙が変わっていく喜び、どうぞ、あなたもご自分の心で感じていってください。

四九、田池です。

私のホームページをご覧になっていかがでしょうか。

それぞれの心で感じることを大切にしていってください。

そして、心が上がってきた思いを、どうぞ、これからのあなたの勉強に活用していってください。

学びの基本は、何ら変わるところはありません。

お母さんの温もりです。温もりが心に確立していなければ、学びの本筋に触れることはありません。

心は、敏感になり、色々なものを感ずるかもしれません。

そこからがあなたの勉強の始まりなのです。

私達は、ともに行きましょうと喜びで伝えています。

その喜びの輪の中に、あなたも、あなたも、どうぞ、入ってきてください。

五〇、私の勉強、A、B、C、D

……、それはあなたの勉強です。そのように、ホームページを活用してください。

A、B、C、D……、特別ではありません。誰でもやればできるんです。

それを示しているだけです。今世、学ぶ機会を得たのは、あなたです。

どうぞ、そのことを、何度も、自分に伝えてください。

私は、本当に喜びを喜び合える仲間を一人でも多く待っています。

一人でも多くの人が、二五〇年後に繋いでほしい、そう思うだけです。





## 《U T A会からのお知らせ》

### ●U T A会状況とお知らせ

1) 2010年度U T A会の10月31日現在の会員数は以下の通りです。

- ・正会員 879名(海外在住者23名含む)
- ・準会員 39名(海外在住者3名含む)

2) 2010年4月以降に発送したもの

- 4月 冊子「宇宙の風—宇宙からのメッセージ— 第1巻」  
機関誌「U T A会だより第2号」
- 5月 本「意識の流れ 増補改訂版」田池留吉・塩川香世
- 6月 冊子「宇宙の風—宇宙からのメッセージ— 第2巻」
- 7月 冊子「Message from Taike Tomekichi」
- 8月 冊子「あなたの意識です。第1巻」
- 10月 冊子「あなたの意識です。第2巻」
- 11月 機関誌「U T A会だより第3号」

3) 今後の予定

12月 第5回U T A会開催(19日～21日)

2011年

1月 冊子「あなたの意識です。第3巻」発送

※ 冊子は予定ですので、変更になる場合もあります。また、これ以外にも新刊本の図書館や視覚障害者施設への寄贈が予定されています。

4) 来年2011年度のU T A会の開催予定

来年度は、年4回の開催を予定しています。開催日時は、以下の通りです。

◆第6回U T A会	5月29日(日)～31日(火) / 前日泊 5月28日(土)
	申込期間4月18日(月)～5月9日(月) / キャンセル連絡日5月13日(金)
◆第7回U T A会	7月10日(日)～12日(火) / 前日泊 7月9日(土)
	申込期間6月1日(水)～6月20日(月) / キャンセル連絡日6月24日(金)
◆第8回U T A会	9月4日(日)～6日(火) / 前日泊 9月3日(土)
	申込期間7月25日(月)～8月15日(月) / キャンセル連絡日8月19日(金)
◆第9回U T A会	12月18日(日)～20日(火) / 前日泊12月17日(土)
	申込期間11月7日(月)～11月28日(月) / キャンセル連絡日12月2日(金)

※ キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

5) 来年 2011 年度の U T A 会参加料金に関してのお知らせ

来年度の U T A 会の参加料金を大人 1 泊 9,500 円とすることを予定しています。これは今年度の年会費の余剰分を皆さまに還元させていただくためです。

ただし、年会費の余剰分が今年度が終わるまで確定しませんので、来年度の 4 回すべてに対して還元できない場合もありますので、予め、ご了承ください。

現時点で、第 6 回 U T A 会に関しましては還元することが確定しています。それ以降に関しましては、確定し次第、U T A 会のホームページでご案内いたします。

また、還元の対象は大人の宿泊のみで、前日泊、及び、お子様の料金は変わりません。

●今年度の U T A 会セミナーのご案内

1. 開催日時と場所（遠方から参加される方のために、前日泊も設けています）

① 開催日程

◆第 5 回 U T A 会		
2010 年 12 月 19 日（日）～ 21 日（火）	参加人数	800 名
2010 年 12 月 18 日（土） 前日泊	参加人数	300 名
19 日（日）	13:30～17:00	（12:00 開場）
20 日（月）	10:00～17:00	
21 日（火）	10:00～12:00	（会場は 14:30 まで使用できます）
【申込受付期間】	2010 年 11 月 8 日（月）～ 29 日（月）	
【キャンセル連絡日】	2010 年 12 月 3 日（金）	

② 会場 琵琶湖グランドホテル

〒 520-0101 滋賀県大津市雄琴 6-5-1 / TEL 0775-79-2111

2. 参加申込日程と参加料金

申込日程		会員料金
前日泊	夕食・朝食付	10,500 円
前日泊+全日程	3 泊 4 日 8 食付	30,500 円
前日泊+前半 1 泊	2 泊 3 日 5 食付	20,500 円
全日程	2 泊 3 日 6 食付	20,000 円
前半 1 泊/後半 1 泊	1 泊 2 日 3 食付	10,000 円

\* 初めて参加される方の参加料は、会員と同じです。但し、会員でない方の U T A 会参加は、初回のみとさせていただきます。

\* 小学生、幼児は別料金になりますので、ホームページをご参照ください。

\* 料金には、セミナー会場使用料も含まれています。

### 3. 申込方法について

- ① 申込期間内に、お近くの郵便局に備え付けの青い振替払込書にて、U T A会セミナー料金をお振り込みください。それで受付とさせていただきます。
- ② 振替払込書に、氏名、会員番号、申込日程を、必ず明記してください。布団、食事を必要としないお子様の名前、年齢も、必ず明記してください。
  - ※ 複数名でお申し込みの場合は、それぞれの氏名、会員番号、申込日程を必ず明記してください。
  - ※ 同室希望については、第3回U T A会より同室希望の受付条件を、病気の方や介護が必要な方とのお世話をされる方、また、小さなお子様のいるご家族の方のみに、変更させていただきました。  
同室を希望される方は、お手数ですが同室希望の理由と、それぞれの氏名を、必ず明記してください。  
但し、ホテルの部屋の都合上、ご希望に添えない場合がありますので、ご了承ください。
  - ※ 初めて参加される場合は、振込払込書に、氏名、申込日程、住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレスを明記してください。(性別、年齢等はU T A会の部屋割りに、メールアドレスは受付確認メールの送信に必要となります)
  - ※ 交通機関のご都合等で、U T A会最終日に昼食が不要の方は、「食事不要」と振込用紙に記載して下さるよう、お願いいたします。
- ③ 振込先(振込口座番号等は、必ず確認をお願いいたします)  
口座番号：01700-5-140092  
加入者名：U T A会
- ④ 入金の確認ができ次第、U T A会受付確認のメールを送信いたします。  
なお、郵便振替払込書がこちらの手元に届くまでには4日間ほどかかりますので、確認メールの到着までには、一週間ほどお待ちください。また、メールアドレスをお持ちでない方へは、ハガキにてお知らせいたします。

### 4. キャンセルについて

- ・キャンセル連絡日までのキャンセルはメールで、また、キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセルは、必ず次ページの電話番号まで連絡をお願いいたします。
- ・キャンセル連絡日までのキャンセル料は、無料です。
- ・キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセル料は、総額の100%です。
- ・U T A会当日にキャンセルされる場合でも、必ず電話連絡をお願いいたします。

### 5. 参加についてのお願い

- ・参加のお申し込みは、必ず、期間内をお願いいたします。
- ・義務教育中のお子様の学校を休んでの参加、または幼児、小、中学生の保護者同伴なしでの参加は、ご遠慮ください。

- ・家族（夫、妻、舅、姑、子供…）に、U T A 会への参加を反対されている人、または家族、職場に対して嘘をついて参加することは、ご遠慮ください。
- ・参加費用を借金して U T A 会に参加することは、ご遠慮ください。
- ・ホテルや他の宿泊客に迷惑をかける人、または U T A 会の進行を妨げるような行動を取る人は、参加をご遠慮ください。
- ・参加者同士がトラブルを起こした場合、当事者間で解決が見られるまで、参加をご遠慮ください。
- ・セミナー期間中の個人的な物品の販売は、ご遠慮ください。

## 6. 会場ホテルへのアクセス

- ・電車をご利用の方

大阪・東京方面→JR 京都駅→JR 湖西線「おごと温泉駅」下車（JR 京都駅より 20 分）  
→琵琶湖グランドホテル（JR おごと温泉駅よりホテルの送迎バスにて 5 分）

- ・自動車をご利用の方

大阪・東京方面→名神高速道路 京都東 IC →西大津バイパス仰木雄琴 IC →  
国道 161 号線→琵琶湖グランドホテル（仰木雄琴 IC より 2 分）

### 【連絡先】

- ・お問い合わせは、U T A 会サポートまでメールでお願いいたします。

メールアドレス：support@utakai.net

- ・キャンセル連絡日までの変更、及び、キャンセルは、上記 U T A 会サポートまでメールで、キャンセル連絡日を過ぎての変更、及び、キャンセルは、下記まで電話でご連絡ください。

幹事長 久保明子 TEL 042-771-9100

U T A 会のホームページでもセミナーの案内等を掲載していますので、ぜひ、ご参照ください。

U T A 会ホームページ：http://utakai.net/utakai/index.html



◇◇◇◇◇ 編集後のつぶやき ◇◇◇◇◇

◇ 第 4 回 U T A 会セミナーでは、最終日の昼食が、交通機関等の都合で不要の方には、振込用紙に「昼食不要」と記入していただくようお願いいたしました。その結果、かなりの方に記入していただき、助かりました。本当に、ご協力ありがとうございました。今後とも引き続き、よろしくお願いたします。

◇ U T A 会のホームページで、体験談やメッセージを最近頻繁に募集しています。この誌面でも、寄せられた体験談やメッセージを、ともに勉強している仲間を紹介していきたいと思っていますので、たくさんのご応募をお待ちしています。（中村）